



叙勲の榮譽に浴して

昭和十四年度卒

川田 信

私は旧制第三十回の卒業生であります。この度は図らずも会報への寄稿の機会を頂戴し誠に光栄に存じております。

同封された会報を拝読させて頂きました。後輩の皆さんのご活躍ぶりに感銘すると共に小坂会長さんの挨拶の中に大野原開墾に関することが載っており七十二年前を思い出し感無量となった次第であります。三年間お世話になり農業者としては元より人間としての基本を養って貰った母校を決して忘れることはありません。あの当時新入生の一週間は授業開始前に開墾作業をするのが本校の習わしでしたが大野原を抱いての作業は苦にならな



叙勲の榮譽に浴して

昭和二十五年年度卒

大足 節

平成二十年年度の叙勲に際し、地方自治功労者として、旭日双光章の、栄に浴することが出来ました。五月一日県公館に於いて福田知事より旭日双光章の伝達を受け勲章を頂いてまいりました。

五月十三日は皇居にて天皇陛下の拝謁を賜り、感激の極みでありました。顧みますと昭和五十年四十二歳の時、二宮町議会議員に初当選から連続八期三十二年間議会ひとすじに地方自治に携わつ



藍綬褒章を受章するにあたり

昭和四十二年年度卒

日下田 彰

の皆様のご指導をいただきながら遺族会や傷痍軍人会の役員として微力を尽くして参りました。

特に傷痍軍人会関係では昭和二十九年より旧逆川村を始め茂木町や芳賀郡の役員を、現在(財)栃木県傷痍軍人会(財)日本傷痍軍人会理事も務めております。この度援護功勞として平成二十年の叙勲で旭日双光章授章の榮譽に浴することが出来ました。これ偏に多くの皆様のご教導ご支援と真農精神の賜りたしたもの感謝しております。

有難きは母校であります。結びに北陵高校の栄光を讃え益々の発展をお祈りすると共に同窓会、教職員、在校生の皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げペンを置きます。

この時皇族(皇后陛下、秋篠宮妃殿下、高円宮妃殿下)御三方から、じきじきにお言葉を頂き緊張のあまり、頭の中が真っ白になった事は今でも思い出として残っております。

私は、「日本ふるさと塾」に学びながら、人づくりこそが町づくり、を信念に、教育施設の充実と福祉の充実を注いできた所でありましたが特に特別養護老人ホーム「喜望荘」新設は平成四年に開設を実現しています。

現在は集落営農の基盤ともなる土地改良事業に取り組んで居ます。子供達に好かれる故郷

私は昭和四十二年に、本校農業科を卒業、その後施設園芸の先駆者の一人でもあります宇都宮の釜井氏宅に、寝食を共にさせて頂きながら、研修生として一年間、県内外からの十一人の仲間とトマトの促成栽培を学びました。研修終了と同時に十アールのビニールハウスを建て(次年に十アール増設)トマト栽培を、両親と三人で始めました。しかし五年目にして、圃場の基盤整備の影響と、更にはオイルショックも重なり休業を余儀なくされて、施設園芸に見切りをつけました。その後建設会社へ入社して、現在も建設業に従事しております。このような私であります。平成二十年年度の叙勲に際しまして、思いもかけない藍綬褒章を受章することが出来ました。これはいまでもなく、多くの皆様方のご指導と、ご協力によるものと心から感謝をしております。この授章のいきさつであります。私が就職して間もない二十歳の時に、真岡市から初めにしたい信念で今後も勲章に恥じないように、微力ながら、お役に立ちたいと願っております。

本校の卒業生である事に誇りと感謝を申し上げ北陵高校の益々の発展をご祈念申し上げます。



農業士近況報告

昭和四十七年度卒

石 和 弘

平成二十年一月十日、県公館において福田栃木県知事より、妻と二人で



農業士の認定証書を頂いてきました。今は、複雑な気持ちでいっぱいです。

全国農業コンクール発表について

昭和四十年年度卒

館 野 義 明

全国農業コンクール全大会に参加し、はが野イチゴ部会が「名誉賞」という誠に栄誉ある賞をいただき、JAをはじめJAはが野イチゴ部会の実績の証と考えております。この部会は生産者数七〇一名、栽培面積約二〇〇ha、一市五町から成りたっております。農協合併が全国各地で進む中、一市五町の単協が合併統合しJAはが野が誕生いたしました。それを機に、イチゴ生産組織も統合化が加速的に進みます。ここ迄の道のりは

決して容易なものではなく、当初は地区意識が強く、会議では議論の連続であった様に思います。しかし時を経るにつれ一体感が漲り現在に至っており、様々な活動が活発に行われております。イチゴの販売額もJAの中では全国一位の八十五億円に達し、栃木県のイチゴ販売額の三分の一を占める状況となっております。この販売状況の中で特筆すべきは、従来通りの市場一過の販売では限界があります。生産者の重労働からの解放、付加価値をつけた販売とい

私は、本校卒業後すぐに就農し、五年目にはハウスを建てトマト栽培を始めました。当時は、仲間もたくさんいましたが、一人ずつ離れていき、部会が崩壊していき、た。そんな時にJAが合併し新しい部会に入ることができ、やっと仲間が出来て、本当に心強くなりました。この部会は、皆が「良い物を作りたい、生き残りたい」という思いを持ち、先輩の方々が後輩達に持っている技術や経験など、たくさん私に教えていただきました。私も農業士の認定を頂きまして、より一層、後継者や仲間達に少しでも貢献できるように、努力しなければと強く思うようになりました。



つた観点から、パッケージセンターの建設そして稼働をする事により多種多様な商品を販売する事が出来る様になり、そうすることでも有利販売に繋がり、ひいてはJA、生産者の所得向上を図るメリットが出てきたと思えます。多様な栽培方法新技術の導入指導を図る事により生産量のアップ、又コスト低減そして新規栽培者の育成等を積極的に進めてきました。イチゴが地域活性化をなし得ているのが二宮町であり二宮イチゴ祭りが毎年盛大に開催されております。JA、町、生産者が一体となり各種イベント又収穫体験等々、地域住民との交流を図っております。

平成20年度 優良同窓生

私の農業経営と今後

昭和四十九年度卒 阿久津 敬夫



北陵高校百周年おめでとうございます。わが家は、母と私の三世代に渡ってお世話になり表彰していただきました。本校の同級生数人とは、一回、家族ぐるみで食事をし、交流が続いています。また、息子は、ライフル射撃に出合い、

近況報告

昭和五十二年度卒 小林 透



私は、昭和五十二年度に本校農業科を卒業し、その後、宇都宮農業高校特別専攻科、農業経営科に進学し卒業後就農しました。

当時の経営面積は、水稲二百三十アール、和牛肥育二十五頭でしたがその後、徐々に規模拡大を図り、現在は水稲九百六十アール、二条大麦、六

私の経営

昭和五十三年度卒 出口 靖雄



私は、昭和五十三年度本校農業科を卒業し、その後、農業短大の経営研修科終了後、就農いたしました。

や親しい友人と稲作勉強会を作り、収量の増収と品質の向上を目指し、研鑽した事が、現在も役立っているように思います。

その後、中学時代より携わった肥育牛の育成は狂牛病による価格の低迷や環境問題に関連した法の整備に伴い、牛舎の整備を迫られ、経営から撤退することになりました。

現在は、稲作九百アール、減反政策により増加した、麦九百アールと大豆二百アールを中心とし

時代になって、食料の安定供給や色々な面からの消費者の期待にこれまでに以上に応えていける農業者の一人一人が、自ら問題を解決できる努力が必要となります。

そうした中で農業委員として生活から農業経営まで幅広く農家から相談に応え、農家の立場にな

が求められてきている様に思います。このため地域における農地の利用権

ので不安でした。始めるにあたり普及所、花き農家へ何度も足を運び、見たり聞いたり毎日でした。未知の挑戦で何度も失敗を繰り返しながら、あきらめずに作り続けたものです。

昨今、原油高の影響から、農業・肥料・資材といった経費が、毎年値上がり傾向にあるので、全体的に経費の節減に心がけて生きたいと思っています。一昔前の農家は、品質の

た経営をしています。稲作は、有機肥料の使用と減農薬の基準をクリアした特別栽培米を作付けしています。麦は、醤油に使用するので、タマイズミを主力に栽培しています。

農作業は、就農当時に比べ、機械の大型化により、労働力が軽減されました。しかし、農業を取りまく環境は厳しい時代ですが、地産地消の推進や食の安全から国産品に対して消費者の期待も大

利関係や農家の現状と認定農業者の実態や意向の把握に努めるとともに、問題解決に必要な制度について幅広く理解しておく必要があります。

いづれにしても特に、これからの若い後継者が、自信と意欲を持って農業に就農できるような環境作りができるよう心がけていきたいと思っています。

そのために、今後さらに規模拡大を図りつつ地域のモデルになれるよ

良い作物を作っていればいくらでも売れたものでしたが、現在では、消費者のニーズにあったものを作らなければ売れない時代になってきました。

これからは、私たち生産者が消費者の求めている物をしっかりとイメージしなければならぬと言ふことです。このように、私たちを取り巻く状況は大きく変わってきています。現在我が家の経営は、

きくなっていると思います。これからも、栽培に關しては、地球温暖化による気温の変化など対応するなど、試行錯誤を繰り返している日々です。

昨年から、農協理事として、生産者の立場から、JA活動にも参加しています。

食文化は、人間にとつては欠かせない分野です。その担い手として、健康に気づかいながら、ゆとりある農業をめざして行きたいと思っています。

自分自身、自信と意欲を持って努力していきたいと思っています。



青年部長挨拶

平成十四年度卒 荒川 普丸



平成二十年四月から同窓会青年部長に就任しました。平成十四年度卒業の荒川普丸です。よろしくお願ひ致します。

本年度活動におきましては、同窓会役員の先輩方、事務局の先生方、また同窓生の皆様方には、日頃より、暖かいご指導ご支援を頂きまして、厚く御礼申し上げます。

さて、本年度は役員改選があり新体制となりました。今年度の青年部活動で、前年度同様、役員会（親睦会）を中心に役員間の

研修旅行について

平成十五年度卒 宮田 尚之



私たち、同窓会青年部は平成二十年十二月六日から七日までの一泊二日、北海道視察研修に行ってきました。

初日に「ノーザンホースパーク」と「キリンビール園」へ、二日目は時間の関係から「札幌外市場」の視察だけでした。がとても充実した視察研修旅行になったと思います。

初日の北海道は天気予報通りの雪で、飛行機から見える景色は一面雪景色でした。最初の視察場所である「ノーザンホースパーク」では雪の為、馬が怪我しないように、一頭も放牧されている馬

ノーザンホースパーク
NORTHERN HORSE PARK
Riding in Hokkaido



イル麦栽培者もいたもので、みんな、真剣な表情で内部を見学しました。

今回の視察研修旅行は二日間ともあいにくの雪と一泊二日という短い日程だったのですが、充実した視察になりました。今後の同窓会の発展の為に、また、真岡北陵高校の為にOB、OGが協力し合い、頑張っていきたいと思っています。

最後に、今日このような機会を設けて下さった真岡北陵高校関係者の皆様に厚くお礼申し上げて視察研修旅行の締めとさせていただきます。



周年の記念行事が執り行われ青年部として参加させて頂いたが、北陵高校百年の歴史の重みを肌で感じました。

同窓会青年部としては、本校への協力は限られた活動内容になると思いますが、同窓会各位の皆様、事務局の先生方には、今後とも青年部にこそ支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

講演「本番に強くなる」を聴いて

特活部長 小島 理 夫

二月五日(木)県高校ス
ポーツ賞の表彰式(ライフ
射撃部と菅谷先生が、ス
ポーツ奨励賞と優秀監督賞
を受賞)後、福島大学の白
石豊教授による講演「本番
に強くなる」があった。氏
によれば、自信と感情コン
トロールが出来れば「本番
に強くなる」といふ。講演
は、本番で百二十％(実力
が百二十％出る世界を「ゾ
ーン」と呼ぶ)の力(練習
の八十％の力があれば勝て
る、と言われている)を出
すための話であった。い
わく「勝つのは偶然ではな
い、必然である。行き当た
りばつたりはだめ。」「こ
の話を、スポートだけにで
なく、夢・目標・進路の表現
や人生の様々な場面で応用
できるものと思ひ、報告し
たい。

成績は自信に比例し、自
信は自己イメージに比例す
る。つまり、自己イメージ
を変えれば自信が生まれ、
行動・成績につながる。自
分のポジティブな言葉か
けで自己イメージが三週間
で変わる。(顔つきが変わり、
生き生きしてくる。)

生徒会長として

三年四組 平 野 駿 也

私が生徒会長となり、早
一年の任期を終え、あつと
いう間だったという思いと
同時に、会長という、重要
な名を背負ってきたこの一
年に充実感も湧いてきます。
今年本校が「自転車盗
難モデル校」に選ばれ、私
たち生徒会、交通委員会の
方々と協力し、生徒一人一
人の鍵の施錠、また、もう
一つ鍵を追加するツーロッ
クも呼びかけました。皆で
協力したかいがあった、真
岡北陵高校は、昨年度より
も盗難の数が著しく減少し
たという事で、優秀校とし
て選出されました。一人一
人の防犯意識の高さが、形

国体に出場して

三年一組 藤 平 卓 也

地方予選を勝ち抜き、
今まで夢見ていた国体に
出場するという夢を叶え
ることができましたが、
このとき、私は国体に出
場するだけで満足してい
ませんでした。なぜなら、
このときの自分ならば優
勝に喰らいつくこともで
きるのではないかと、とい
う自信を持っていたから
です。

実際に大会会場に着く
と、身が震え、緊張をそ
の身に感じました。それ

国体に出場して

三年三組 佐 藤 泉 美

私は、十月に大分県で
行われた国民体育大会に
出場しました。国体とは
広く国民の間にスポーツ
を広め、国民の生活を明
るく豊かにすることを目
的とし、昭和二十一年から
開催されている大会です。
大会は都道府県対抗で行
われており、各競技とも
順位に応じて得点が与え
られます。全競技の得点
を合わせ、男女総合成績
第一位の都道府県に天皇
杯、女子総合成績第一位
に皇后杯が授与されるこ
とになっています。

国体に出場するにはま
ず、県の代表にならなく
てはなりません。そして、
関東ブロック代表同士決
められた枠を取り合い通
過できた者が国体に出場
できます。栃木県は射撃

部がある高校が少なくほ
とんどが北陵の生徒です。
しかし、少ないながらも
大会では確実に成績を残
す実力のある学校です。
私が代表に決まってから
は、普段の練習をさらに
打ち込み、大会前も遅く
まで練習しました。自分
の結果しだいでは来年の強
化費が左右されてしまい
ます。後輩が良い環境で
合宿を行えるよう、入賞
しなくてはならないと思
うようになりました。も
う一度大会に対する気持
ちを入れ換え、本番に臨
むことにしました。

ニュージーランド研修に参加して

二年一組 井 沢 裕 幸

七月七日(二十三日ま
で)ニュージーランド派遣
農業研修に行ってきました。
ある日先生に「ニュ
ージーランドに行かない
か?」と言われたことが
きっかけです。また、私
の家は農業を営んでおり、
ニュージーランドの農業
を学んで将来に生かした
いと思つたのも参加の動
機です。

ニュージーランドでの
移動はバスで移動しまし
た。移動中のバスの窓か
ら見る景色は、日本とは
違って牧草地が続き羊や
牛などが放牧してあり本
当にニュージーランドに
います。

部活動紹介 (野球部)

三年二組 高 橋 大

野球部は三年九人、二
年九人、一年三人、マネ
ージャー二人の二十三人
で活躍しています。顧問
の先生は、中里先生、古
澤先生、押入保先生で、
毎日朝早くから夜遅くま
で熱心に指導して下さい
ました。

去年の夏、今市高校と
の試合は延長十五回サヨ
ナラ負けをしました。目
の前でサヨナラ負けをし
た悔しい思いや先輩方と
野球が出来ない寂しい思
いがあり、先輩方と泣い
たことを今でもはつきり
と覚えています。

そして私は、先輩方か
ら新しいチームの主将を
託されました。
新チームで挑んだ小さ
な決勝トーナメント進出
や三位という結果に終わ
り、新チームとしてまず
まずのスタートが切れま
す。秋の大会では青藍
杯、皇后杯を目指したい
と思います。

した。ホルスタインより
も一回り小さく、乳量も
ホルスタインより少ない
牛です。しかし、この牛
が普通だそうなんです。や
り、国によって飼ってい
る牛はかわるんだと思い
ました。

こんないろいろな経験
が出来たのは、ニュージ
ーランドに行かせてくれ
た家族や先生、現地のス
タッフやホストファミリー、
そして、一緒に行つ
た仲間がいたからこそで
きたことだと思ひます。
そして、この経験を将来
に生かしていきたいと思います。



三本の連打で一点を返
し、二アウトからヒット
で二点目、そして、キャ
ッチャーのパスボールで
同点、ランナーを二人置
いてのホームラン。一気
に六点を取り逆転しまし
ました。結果は六対三で勝
ちました。校歌を歌ってい
る時は泣きそうでした。
この試合で最後まであ
きらめないことの大切さ
を学びました。

たつた一勝かもしれない
せんが、私達にとっては
たくさんの想いが詰まっ
てやっとな掴み取った一勝
です。この試合のことは
一生忘れません。
また、こんな頼りない
キャプテンについてきて
くれた部員たちには、心
から感謝しています。
この部員たちは一生の
宝です。

頑張ってます。北陵生

平成20年12月現在

<陸上部>

- 県高校総体陸上競技大会 男子800m 3位 仁平 裕也
 ○栃木県陸上競技選手権大会 男子800m 2位 仁平 裕也
 ○第81回関東陸上競技選手権大会 男子800m 4位 仁平 裕也

<バドミントン部>

- 第49回栃木県高等学校総合体育大会バドミントン競技会
 女子団体 ベスト8進出(鮎田 千尋・黒子 香織・田谷 成美・菅又まりえ・
 案納 咲樹・阿久津智子・古橋 百果)

<テニス部>

- 第5回 真岡ダブルリーグ戦 優勝 加藤智永里・豊田結加里

<農業クラブ>

- 栃木県学校農業クラブ各種種競技会 プロジェクト発表
 区分 食料 優秀賞: 3-1 (中島亜姫・飯山理沙・伊沢忠弘・大村智洋・
 奥野崇史・金田智史・小嶋 明・藤平卓也)
 区分 文化・生活 優秀賞: 3-3 (長谷川琴美・石田千絵里・小田島朝美・
 田崎 友晴・田野井麻美)
 ○栃木県学校農業クラブ各種種競技会 意見発表
 区分 文化・生活 最優秀賞 大塚 恵理
 区分 環境 優秀賞 稲川明日香
 区分 食料 優秀賞 石野 由佳
 ○平成20年度フラワーアレンジメント競技会 栃木県大会
 最優秀賞 石川由紀恵
 ○第59回農業クラブ関東大会 意見発表
 区分 文化・生活 優秀賞 大塚 恵理
 ○日本学校農業クラブ連盟全国大会 農業鑑定競技会
 農業コース 優秀賞: 西澤 清乃
 農業機械コース 優秀賞: 手塚 裕也
 食品科学コース 優秀賞: 春添まどか

<共進会>

- 第20回栃木県ホルスタイン共進会
 第1部 優等2席 大関あゆみ
 第3部 優等2席 宇野 紗矢

<ライフル射撃部>

(BRはビームライフル ARはエア・ライフルの略)

- 関東高校ライフル射撃競技選手権大会
 AR 男子団体優勝 藤平 卓也・大畑 翔平・塩野谷則哲
 BR 男子団体準優勝 萩原 光・齋藤 佳・日下田貴俊
 AR 男子個人3位 藤平 卓也
 AR 男子個人4位 大塚 祐弥
 AR 男子個人6位 川田 昌平
 AR 男子個人7位 塩野谷則哲
 AR 男子個人8位 大畑 翔平
 AR 女子個人6位 佐藤 泉美
 AR 女子個人8位 川崎 寛子
 BR 男子個人6位 日下田貴俊
 BR 男子個人7位 辛島 輝義
 ○全国高校ライフル射撃競技選手権大会
 AR 男子団体優勝 藤平 卓也・大畑 翔平・塩野谷則哲
 BR 男子団体6位 萩原 光・齋藤 佳・日下田貴俊
 AR 男子個人2位 塩野谷則哲
 BR 男子個人2位 萩原 光
 ○国民体育大会ライフル射撃競技大会
 AR 男子5位 藤平 卓也
 AR 女子3位 佐藤 泉美
 ○第6回関東高校ライフル射撃選抜大会
 AR 男子4位 萩原 光
 AR 男子7位 大塚 祐弥
 BR 男子3位 日下田貴俊
 BR 男子6位 辛島 輝義
 BR 女子4位 柿沼 彩

<吹奏楽部>

- 第1回栃木県県南地区アンサンブルコンテスト
 金管5重奏 金賞 (西村朱貴・鈴木那美香・野原明日香・野澤愛未・山口彩)
 クラリネット3重奏 銀賞 (目野 愛莉・田口 優稀・野澤 里花)



家庭クラブ活動報告

顧問 松本 歩

家庭クラブ活動は、「創造」「勤労」「愛情」「奉仕」の四つの基本方針を掲げ、これからの社会を支えていく人材の育成を目標としてさまざまな活動を展開しています。

本校家庭クラブは、交流活動・校内美化活動・研究活動・奉仕活動などを積極的に実践しています。家庭クラブ役員が中心となり、企画運営し、会員全員が活発に活動しています。

交流活動である調理講習会では、献立決めから材料注文や会計、会員への呼びかけなどの全ての段取りを役員が主体的に行います。講習会では、教養福祉科の学年を越えた交流の場となり、上級生の振る舞いが下級生へ

受け継がれていくよい機会となっています。

校内美化活動では、アルミ缶回収、ハンドソープの設置、花壇整備を行っています。特にアルミ缶回収では、校内にアルミ缶回収ボックスを設置しています。回収したアルミ缶を神戸製鋼所へ運び換金します。その益金でハンドソープを購入し、各手洗い場所へ設置しています。それらが全校生徒の衛生面に役立てられています。

研究活動では、毎年十二月に意見発表会を行っています。意見発表では各学年から代表生徒が一名発表します。今年度は一年の岩淵麻衣さん、二年の伊澤千尋さん、三年の安納咲樹さんが発表し

ました。それぞれの立場で自己を見つめ、自分の考えを堂々と発表しました。エプロンシアターの発表では、二年の大根田風花さん、栗林秀平さんが、メッセージ性のある内容を見事に演じました。

調査研究では、三年の北田緒美さん、黒崎和毅さんが『デイズニールランドのバリアフリー』というテーマで発表しました。

教養福祉科三年生全員が調査に携わりまとめました。誰もが好むデイズニールランドの設備やサービスをバリアフリーの視点から捉え、とても興味深い内容でした。

校外の活動では、第五十七回栃木県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会が小山市文化センターで行われました。二年の伊澤千尋さんが意見発表に出場しました。「夢に向かって」という題目で



発表し、好評をいただきました。

これからのさまざまな活動は、他者を認め合うきっかけや他者への心配りの大切さを知る体験と

もなり、豊かな人間性を育む一助となっています。

これからもクラブ員が柔軟な創造力と新しい感覚で益々活躍してくれることを期待しています。

家庭クラブ会長として

三年五組 駒崎 ひかり

初めて家庭クラブの役員としてのお話を聞いた時、家庭クラブのお仕事や今までの先輩方の功績などをお聞きし、私にこんな大役が務まるのかと不安な気持ちでいっぱいだったことを覚えています。しかし、三年間というのはあっという間で、今となれば家庭クラブで活動できたことをとても幸せに思います。

調理講習会では、みんなで協力して一つのものを作り、会話をはずませながら食事を楽しめました。各グループによって味つけや盛りつけに工夫がされていたり、時には失敗してしまうこともあったり……。しかし、みんなで作ったというだけで、失敗でもおいしく

感じてしまうものです。三年生が家族のように温かい雰囲気になれ、いっしょに私にとつてなごみの時間になっていました。

アルミ缶回収では、全学年の生徒のみなさんや先生方にも協力して頂き、集めたアルミ缶でハンドソープを購入し、配布しました。普段関わることもないクラスの方々にも協力して頂いているのだと考えると、一つ一つのアルミ缶を一つ一つ手で洗ったように、たくさんの人達との「つながり」を感じることができました。

一生懸命育て、きれいな花を咲かせてくれた花壇を見ていると、とても心がなごみます。家庭クラブで育てた花たちは、みなさんの心に届いたで



しょうか。あの花壇を見つめて、幸せな気持ちになった方が一人でもいて下されば、私たちは花壇を作ったよかったと思っています。これからも、一人でも多くの方に喜んで頂ける花壇であることを願っています。

先生方に見守られ、家庭クラブ員に支えられ、役員の人々と協力し合い、充実した三年間を送ることができたのも、多くの方々が協力して下さったからだ、心から感謝しています。家族のように温かく、いつでも笑いが絶えない、そんな家庭クラブの役員として関わるのが出来たことは、私の一生の宝物です。本当にありがとうございました。



編集委員

井澤 誠 館 芳衛
 広田茂十郎 猪野 正子
 大根田 勝 山口 秀昭
 豊田 一樹 荒川 普丸

編集後記

本年も同窓会の活躍や生徒会の活動を中心に編集しました。

百年に一度の世界同時不況に見舞われている中、厳しい就職戦線が待ちうけていると思います。

こういう時期にこそ本校の実力を発揮する機会であると前向きに捕え頑張っていると思います。

100周年記念 育英会設立

本校同窓会では、一〇〇周年記念事業の一環として、育英基金を設けた。

人物、学業とも優秀の上、大学等に進学した者に対して給付し、社会有用の人材を育成することを目的としている。

本年度百周年記念奨学生
 生物生産科 高野 聡
 食品科学科 佐藤 泉美
 総合ビジネス科 磯 暁充
 教養福祉科 森野 美穂